



^ 13
3362
1



13
3362
1

二十五
貸仕直屋
本加女衛

茶磯榮



河安永
其元傳也目錄

卷之三

一 松平沙波と敵強原守三云福翁
よ暮りて又并 粘持の事

一 今迄友大石兼の粘持の事
并至善公大石兼の事

大正十年八月廿九日
本大學出版部

卷之二

一 田中五伴 田中深海 裁許 許由

とろろく お守 節 徳 の事

一 田中 修 友 校 入 の事

卷之三

一 大 庄 通 五 伴 一 厨 海 の事

兼 二 っ の 藥 山 右 東 の事

卷之四

一 修 友 大 庄 通 の 田 中 五 伴 友 徳 許 由

兼 宇 吉 公 友 佐 紀 輝 の事

兼 山 右 奥 の事

卷之五

一 修 友 田 中 と 友 味 討 の事

兼 松 平 河 波 吉 成 の 校 友 の事

兼 福 田 九 所 吉 成 友 徳 の事

卷之六

一 猶田窪界に於てくち仲より人成

生輝 志事

一 西尾勘馬と古物持の事

并修友と右の西尾勘馬の對面の事

卷之七

一 田中左仲が中名にぬかぬと

及び素海の事

一 右左の事 海家の志事

卷之八

一 後家お澁修友と右左の事

及とひて志事

一 後家お澁及の事

修友の事

卷之九

一 修友と右左の事

及後家お澁と右左の事

卷之十

一 稻田隆吉とみづの密書との事

一 中島ハ女禁獄拷問の事

卷之拾一

一 お徳と右衛門の事

一 并大右衛門のお徳と新進の事

卷之拾二

一 並進徳とらのお徳と新進の事

一 稻田よしの事

一 稻田殿清次郎の事

一 並田中定次郎の事

卷之拾三

一 稻田殿求ると右進重政の事

一 稻田殿定次郎の事

一 并田中定次郎の事

一 並大右衛門の事

卷之拾六

一 竹友と名へりて其の室におめく

能く水乃の事

一 古名直の形礼の姿と女と列

室示と誠の事

卷之拾六

一 松平七郎と殿様物の事

英と名直の持場と一物の変

一 古名直殿と名直の室に抱りて

英と名直の持場と一物の変

卷之拾六

一 古名直殿と名直の室に抱りて

英と名直の持場と一物の変

一 古名直殿と名直の室に抱りて

英と名直の持場と一物の変

卷之拾六

一 松平を以てし進言花りて又
一 修礼を以てし進言花りて又
一 修礼の看氏連仰りて又南方
の松平氏存りて

卷之十八

一 田中定次前へて修言
一 修言起りて修言の事
一 修言起りて修言の事
一 修言起りて修言の事

歌の手がりとる事

卷之十九

一 修言起りて修言の事
一 修言起りて修言の事
一 修言起りて修言の事
一 田中定次前へて修言の事
一 修言起りて修言の事

卷之廿

一 修言起りて修言の事
一 修言起りて修言の事

一 一 一
めく 大石 出づ 小海 田中
福屋 書 小海 田中
定 先 雛 成 の 事

卷之廿一

一 一 一
田中 定 先 雛 成 の 事
作 福 屋 書 小海 田中
作 友 雛 成 雛 成 の 事
作 友 雛 成 雛 成 の 事

卷之廿二

一 一 一
作 友 雛 成 雛 成 の 事
作 友 雛 成 雛 成 の 事
作 友 雛 成 雛 成 の 事
作 友 雛 成 雛 成 の 事

卷之廿三

一 一 一
田中 定 先 雛 成 の 事
作 友 雛 成 雛 成 の 事
作 友 雛 成 雛 成 の 事

一 定み前内田之集み前へ星彦氏
中合縁着へ一日遷安の事

卷之廿四

一 甲申定み前七代前庭言歌おのま
一 乙未定み前女房宗彦の事
一 丙申定み前女房宗彦の事
一 丁酉定み前女房宗彦の事
一 戊戌定み前女房宗彦の事

卷之廿五

一 松平七代前坂下強助の事
一 七代前坂下定み前と改出へ遷安
一 松平改出教出の六年の事

忠月録 終

徳安永実録傳卷之三

目錄

- 一 松平の波高殿隠居守書云藩書
小養のりさ変英物物の事
- 一 今世佐友太右の格持自物の事
英守書云上右事の成百抱らさ変

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

清阿母永實輝傳卷之五

杉平の波守殿 隆長を主とす 橋

着の蒙らるる 変新 物持の事

今世 修復 古なる 物持の事

昔の 隆長 古なる 物持の事

古洛中 一 氏 百村 園の事

本 隆長 一 園 事 其 本 隆長

これ 隆長 一 園 事 其 本 隆長

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '目録' (Index).

とく実所河のまじりしれあが
かゝる國のちゝゝゝ多くは氏
のひんく幸勞を知ひてそ林
の稼収くまゝとてけ一國固守が
うゝしひてゝも其馬とてその
畜りぬちて氏のまゝの成り
みゝゝゝ一國終小固守の病
ぬゝ乱氏あり一獲は盡す

けゝゝそ糸波引例えんとす
のちゝゝそ糸波引例えんとす
あるまゝのそゝたゝのちやまら
なゝんやゝゝ松平の所為殿隠
そゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
智お懐ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

年^{ねん}に^し軍^{ぐん}金^{かね}を^しく^く所^{しよ}の^し南^{なん}方^{ほう}
去^きる^るを^し七^{しち}の^の村^{むら}の^の百^{ひゃく}姓^{せい}を
留^{りう}便^{べん}と^しり^りを^し近^{きん}所^{しよ}に^して^て或^{ある}の
古^こ代^{だい}の^の古^こ石^{いし}と^し遊^{あそ}ば^はひ
一^{いっ}里^り余^よの^の隈^{かき}に^しも^も結^{むす}核^{かく}
傳^{つた}へ^はる^ると^しり^り物^{もの}中^{ちゆう}銀^{ぎん}月^{げつ}亭^{てい}
と^しり^りる^る屋^や敷^{しき}の^の結^{むす}核^{かく}王^{おう}井^{せい}氏^し
と^しり^りる^る水^{みづ}氏^し神^{かみ}金^{かね}突^つ

と^しり^りる^る或^{ある}の^の主^{しゆ}系^{けい}の^の古^こ石^{いし}の^の
築^{つく}の^の中^{ちゆう}お^おり^り字^じ子^しは^は長^{なが}き^き小^{せう}井^{せい}
と^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^る
山^{やま}を^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^る
も^も屋^や敷^{しき}の^の中^{ちゆう}一^{いっ}里^り余^よの^の屋^や敷^{しき}
の^の古^こ石^{いし}の^の中^{ちゆう}お^おり^り字^じ子^しは^は長^{なが}き^き小^{せう}井^{せい}
と^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^ると^しり^りる^る
切^き掛^けの^の一^{いっ}角^{かく}小^{せう}井^{せい}氏^し神^{かみ}金^{かね}突^つ

坂下よ一河舟は杖茶やとありふ
花人のとほふをく町くへ鶴とあり
二年をこの年の女房よ娘を結
まゝとと縁後とく彼様ゆけ
葉をけ花せん赤砂茶ゆけ
あひらのそはと茶と持く一よの鶴
おのねよあまれ一高天龍きる

しひよとともち縁茶の縁後
うまはと茶ゆなるひ俄よ茶茶を
こまひのめゆり武いふ一うづ
まも茶ゆ一英とそ一彼様の
山のしけ茶やゆき人て茶ゆ
ゆちうづんの茶ゆれととあを茶も
茶ゆあま茶ゆ一相其目こり
縁茶を茶ゆ茶ゆ村の茶茶茶ゆ



のつら〜もあつ〜なれが思〜の
きふらあ〜よ家来〜彼様〜金
一所毎〜達〜杖薬〜三
あはれ〜細〜さ〜彼女
娘〜か〜か〜あ〜あ
みる〜あ〜あ〜あ〜あ
とあ〜あ〜あ〜あ
肩〜あ〜あ〜あ〜あ

いと梅〜て女〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
う〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ

河内津のあの方の津中隠居の
あつては是とつて見るもさう
藩意はのりて或は此のひなを
物と号して一里七里の遠路
あつて田原のまゝなるひな
ひなが埃よ麻植部麻植部村
いふよ源を流つ文をうとて
おまひてちひな分限あり

河内津村の津殿と建せむ
の節は津中殿小出看一のひな
このそののさ着持く相入村
としてあるとてその新穀田
よあつてはれりるもさう
るは十百廿日も新穀とさ
河内津村のひな百廿日
保役とてはる津中隠居

と正伝られ珠は圓の形をいふ事
うし或時を言ふ粒物のものなり
しが其の形は麻挫のを言ふ
作友と名づけしものなり
粒とと業
今代よりやうそは海世とする
今を粒物の形なり
つぎれと粒はあつたおきんふ

卵の形は粒の形なり
と伝はれしやうおし粒の形は
お福しともやう粒の形は
海にたれしやうおし粒の形は
とめたるは粒の形なり
卵の形は粒の形なり
粒の形は粒の形なり
粒の形は粒の形なり

ちるまのりまれ入を成く平休く
あんと斗りつあくまよ宿市と
ふふ氏依くまよの村後人
ふ修者の宿永英州名とふ
しふ村後人の中りるふ修者の修友
ちるまのりま宿ゆく是のく里斗り
南の方山後村も市のふせめて
あぐ教々とぬみねども

おく智教重愛つよありゆり
れがまをまてはれいふ後たも
まよも系染まの宿る種所
あられは彼を衣るあえつれ
村後人の中り他り致さね
相傳つしよの伝き其道進の村
人もまをる成傳る宿あつれ
ふり宿あつて宿あつても

至東青氏付て村中の志共候へども
是成終園する御子よ其旨も院を
よるひしれし旨も此御殿を
そ旨も院を修成する事とて違
ぬし一々の事ゆへ村役人たはよ
しむし物持の物テサ一と存る
海よ今との方よし 皆子よあづき
るよしす候がぬぬとくしは

公付もねきよ皆子よまこと候へども
物三々村中へ尻女とくけるを
と皆子よしは三後するもの候
相又まよ村役人た皆附るまよ
まよら候と旨も院を修成する事
しあよらるもの人氏掛ひまよ
まよらるまよと存る相中く
るまよらるまよはまよる物持乃

まゝなるに教字は業とて海世
侍りしはれはち成候はし何れも
仕度のみはけりしは其年久の
事ゆきまゝに仕られ候へり
思合の仕振りにてしるは
仕度の事もいふはけりしは
教字とぬきまゝに仕るは
しるは世に仕るは其年久の

百姓田畑とての事多敷
るめ其事は至宝候は候は
りしは物とれは其は候は
しるは世に仕るは其年久の
事ゆきまゝに仕られ候へり
思合の仕振りにてしるは
仕度の事もいふはけりしは
教字とぬきまゝに仕るは
しるは世に仕るは其年久の

望し成むよ望し成むよ
さ園とらへてする遠くは元
東彼大石集りては六
さくさくさくさく
のひもろくさく
かきくさくさく
方思ふはさく
むさくさく
課役とらへて

と成志へさくさく
既よ園園家
の系さくさく
石さくさく
あさくさく
銀と百拍て東
かきさくさく
山崎村へさく

のり、氏者ひんせの株と云来
り修夜大なるし、海り高附、
業もぬれ、乃よ山我の
久安の教々と、堀世とて、
定まり、業もつ、
あり、今、氏りつ、高方、
ら、よ、つ、り、つ、り、
も、き、ひ、を、今、多、農、業、も、

す、地、下、人、は、
と、株、麻、と、お、村、中、の、
世、の、平、と、彼、の、
と、中、く、と、其、目、と、
ひ、今、文、の、
と、
と、
と、
と、

よのみめく 誰か甘もねよ
習ふよ 悔まれて ちひはまを
りく 徳持る 所 徳持る
ぬある事 今く 家 楽よ 徳持
そふえよ 徳持の 山を 徳持
半 中 成 成 成 其 次よ 徳持
ふらめく 村の ひ 徳持 徳持
の 徳持 徳持 徳持 徳持

よのみめく 誰か甘もねよ
習ふよ 悔まれて ちひはまを
りく 徳持る 所 徳持る
ぬある事 今く 家 楽よ 徳持
そふえよ 徳持の 山を 徳持
半 中 成 成 成 其 次よ 徳持
ふらめく 村の ひ 徳持 徳持
の 徳持 徳持 徳持 徳持

物より大なるもの徳とては、
の白紙のり引つて、
一風ようらへくゆるに曲着な
まは物より大なるもの徳とては、
改修く教多の徳好とも是
まらへく大なるもの徳とては、
みらへく大なるもの徳好とも是
の徳より大なるもの徳とては、

とらみり

物より大なるもの徳とては、
の徳より大なるもの徳とては、
物より大なるもの徳とては、
く徳より大なるもの徳とては、
物より大なるもの徳とては、
物より大なるもの徳とては、
物より大なるもの徳とては、
物より大なるもの徳とては、

今更のちたりとて我々の肉は我
と知とせしむるものなきをまじき海
は曲がらぬのみならず此の世のや
らへん言のをまじき善徳し
ひまじき言の物なきの何しや
一はかりし我は初にしは後我
言若くは曲がらぬものなきは
古よりいふことなりとてし
と海に

傳折の長りゆきまじき極意傳折
のちまじき一は初にしは後我
言若くは曲がらぬものなきは
古よりいふことなりとてし
と海に

舟くちまの角船一川中を流
速く一対り一船をさうさうに
ち右方を見りちひさしくち右角
舟を渡りて一船をわすれ
あけんとし一船と推して
ちまの河船船より一船と二之
人川中へさきへ一船とち右方
の船かちひさしく一船と

思ふやちまの角船一川中へ
ちまの角船一川中へ一船と
船を渡りて一船をわすれ
あけんとし一船と推して
ちまの河船船より一船と二之
人川中へさきへ一船とち右方
の船かちひさしく一船と

いふの世あへてをくるといふは物成え
とちひは物成えあへてはち知
双方へ引つけ物成えなりき物成
うへせれえ物成へ舟中の物成
空成まよふと来り物成お生ひ
は物成とけ合なるといふは物成
あうとくちひは物成へ物成
物成やと物成へ物成の物成

いれり物成へ物成や双方物成の
舟なりや物成は物成物成へ
うへ物成へ物成へ物成を物
よか物成へ物成へ物成へ物成
いれり物成へ物成へ双方物成
物成物成の物成物成の物成
物成物成へ物成へ物成へ物成
物成物成へ物成へ物成へ物成

よき音と剛年の事新く之行
よけ酒喜み奉とつたえ東お録の
妙とゆゑる人々々々々々々々々々
の音ハそ夜毎よつて返とて考の舟
ふはよ少ね〜道〜舟〜是〜是
り〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟
と脚〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟
石と流〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟〜舟

下南房は位病せよ色〜りるがおや〜大
ちよも彼基を信方〜も〜と〜れ〜々〜
氷練のいんゆ〜り〜り〜り〜り〜り〜り
磨よ急およよ〜入〜入〜入〜入〜入〜入
と〜け〜同〜ハ〜余〜よ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
一可〜ぞ〜ろ〜も〜た〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
平地とゆ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

すまや 漢よ 古今 意母のみ 練
の ぬと ぬる くる くる くる
そ 今 今 是 歩 かの 備 一 三 一 一 一 一
と ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
す ず 水 中 一 一 一 一 一 一 一 一
ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
の 備 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹

竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹

